



信州

人と自然のまち

小海町に住もう

移住・定住の手引き





ようこそ 小海町へ

高原の里の伝統と歴史が息づくこの町で、田舎暮らしをしてみませんか。

長野県の東部、南佐久地域のほぼ中央に位置し、東は北相木村、西は八ヶ岳連峰を境に茅野市、南は南牧村・南相木村、北は佐久穂町（旧八千穂村）にそれぞれ接しています。

町の中央を南北に流れる千曲川に沿って帯状の平坦地が形成され、ここを国道141号、JR小海線が走り、町の主要な交通路となっています。千曲川の左岸（西部地域）は八ヶ岳連峰の裾野が広大な傾斜地として広がり、右岸（東部地域）は秩父山塊の裾野の段丘帯となっています。

《標高》 小海町役場庁舎…855m

松原湖…1,123m

《総面積》 114.20km²

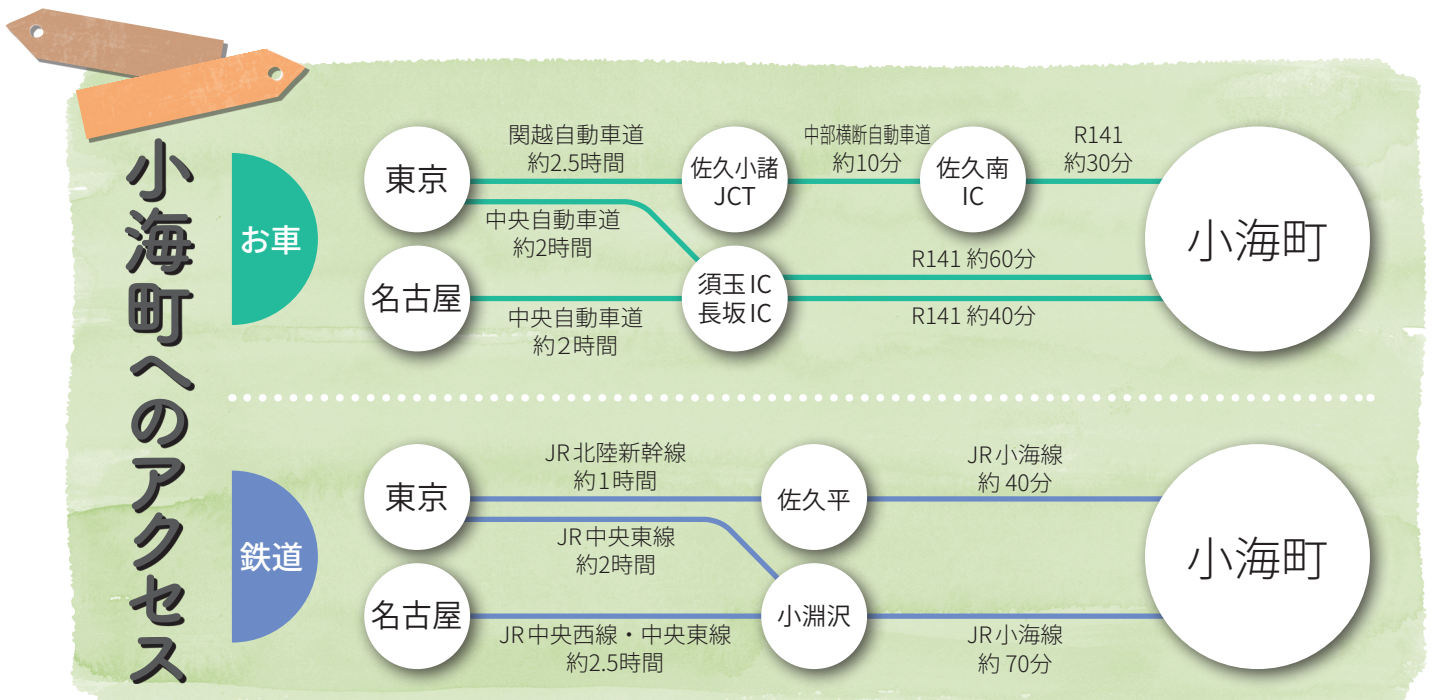
《人口》 4,946人

《世帯数》 1,959世帯

《平均気温》10℃※

住民基本台帳(平成27年1月31日現在)より

※平成25年南部消防署調べ



感じる

八ヶ岳の自然に囲まれた小海町は観光名所の宝庫。
自然・歴史・文化・食をぜひ体感してみてください。



①松原湖(猪名湖)

松原湖高原の中心をなす松原湖。猪名湖、長湖などの湖沼群を総称して松原湖といい、一般には最も大きい猪名湖を松原湖と呼んでいます。季節により水面の色が変わり神秘的です。

②小海リエックス・ゴルフ場、スキー場

八ヶ岳、浅間山、秩父連山を望み、ゴルフ、テニス、スキーなどのスポーツエリアとチャペルなどもある滞在型リゾートホテル。

③白駒の池と原生林

苔むした太古から続く深い森に、神秘的な白駒の池。駐車場から池までは、原生林の中を歩いて15分ほどです。秋の紅葉が素晴らしく多くの観光客が訪れます。

④松原湖灯籠流し花火大会

数百もの灯籠が湖面をゆらゆらと漂い、色とりどりの花火が夜空に咲き乱れ、さらに湖面に映し出され、辺りは幻想的な雰囲気に包まれます。

⑤八峰の湯

高原にわたる爽やかな風と豊かに湧く湯。心から体から五感が蘇る。八峰の湯の浴場は、内湯（源泉掛け流し、高温浴槽）、速赤サウナ、露天風呂、岩盤浴と充実しています。

⑥鞍掛豆

町では遊休農地を活用して、鞍掛豆の栽培に取り組んでいます。鞍掛豆は青大豆の一種で、豆の模様が「馬に鞍をかけたような」見た目から「鞍掛豆」と呼ばれています。また、その風味から「のり豆」、最近では「パンダ豆」とも呼ばれます。

⑦氷上わかさぎ釣り

12月下旬から3月上旬にかけて行われる結氷した湖上でのわかさぎ釣り。道具のレンタルもあり、松原湖、長湖で楽しめます。

⑧小海町高原美術館

松原湖高原に建つ、安藤忠雄氏設計の美術館。洗練された空間は周囲の大自然と調和し、芸術に親しむための環境を与えています。

暮らす

豊かな自然環境で、安全安心に暮らせる町は魅力的です。

交通

町民の主な交通手段は車ですが、町内5路線運行の町営路線バスや、観光客、通学の足となるJR小海線が走っています。



病院

長野県厚生農業協同組合連合会が運営する内科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科があり、また緊急時に対応できる屋上ヘリポートを備えた佐久総合病院小海分院、小海駅に併設し、JR利用者に利用しやすい小海診療所など、医療環境が整っています。



佐久総合病院 小海分院

商業施設／教育機関

町内にはスーパーマーケット2店、コンビニエンスストア4店、ホームセンター2店等があり、小海駅前を中心に様々な商店が点在し、日常の暮らしを支えています。教育機関は、保育園・小学校・中学校・高等学校がそれぞれ1校ずつあります。小海小学校は町費による講師がおり、少人数教育等きめ細かな指導をしています。

育てる

親も子ども、のびのび ゆったりした暮らしができる。保育料の負担軽減を実施しています。

子育て支援センター

乳幼児及び保護者等が交流を行える場所を開設、子育てについての相談、助言情報、教室講座、その他の援助を総合的に行うことにより、地域子育て支援の充実を図り、健やかな成長を目的とした「ひろば」です。



児童館

町内には小海なかよし児童館があり、地域の幼児・児童が学校が終わってからの時間を安全に過ごせる設備が整っています。町の自然や伝統、食文化等にふれるイベントも開催しています。



子育てサポートこうみ

地域全体で子育て支援を目的に、児童の登下校の見守り、笑顔あいさつ運動、保育園、児童館の教室、イベントの講師やサポート、学習ボランティア、育児サポートを実施しています。

働く

小海町には様々な仕事があります。
自分にあった職場で才能を活かしてみませんか。



農業

高原特有な冷涼な気候を活かし、白菜、レタス、キャベツ等の高原野菜の栽培が盛んです。また、近年は、無農薬の野菜づくりも盛んです。自分たちで安全・安心な農作物をつくる新規就農を目指してみませんか。

林業

広大な国有林と町有林が大きな面積を占める小海町において、林業の継承は重要です。山林を育て、地域環境を守るために間伐作業等が行われています。小海町内には南佐久中部森林組合や個人で林業を営む方がいます。



商業

今まで勤めてきた会社でのキャリアを活かしつつ信州で暮らしたら…。培ってきた技術や人脈が移住先に新しい風を起こすこともあります。町内には建設土木業、建材業、飲食店、観光業を営む企業があります。新天地で新たな挑戦をしてみませんか。

インターンシップ制度の活用

八ヶ岳の麓、高原のきれいな空気のなかで、仕事体験をしてみませんか。

小海町を活動の場として、町の農業・林業・商業など様々な職の場を体験できます。

●農業

時期により、土づくり・畝立て・マルチ張り・育苗・定植・収穫の体験及び技術の習得

●林業

地拵え・植え付け・下刈り・除伐・間伐・主伐の体験及び技術の習得

●商業

パン屋、豆腐店などの各作業工程の体験及び技術の習得

●その他

地域の活性化などに関すること

※町のホームページで町内企業の情報を見ることができます





小海町で定住する方を応援するための取り組み

定住促進支援制度

暮らす

子育て世代住宅取得助成事業

- 対象者
19歳未満の子どものいる世帯、もしくは夫婦のどちらかが40歳以下の世帯
- 対象要件
居住部分が50㎡以上の物件の取得
(新築住宅・増築・中古住宅の取得)
- 助成金額
・新築住宅の取得 100万円
・増築・中古住宅の取得 50万円
- *新築・増築住宅を町内業者で建設した場合20万円が加算されます。(中古住宅は適用外)
- *19歳未満の子どもが世帯にいる場合、1人につき10万円が加算されます

住宅リフォーム助成事業

- 対象者
・小海町に住民登録している方
・対象となる住宅所有者・借主
- 対象要件
・自己または家族の居住に供する住宅
・店舗併用住宅の住宅部分
・借家住宅 (借主が実施する場合)
- 工事を行う業者要件
小海町内の住宅関連業者 (個人事業者の含む)
- 対象となる工事
・個人住宅の増築・改築・模様替え・補修・設備改善工事及び新築工事
- 助成金額
・対象工事費の20%
(中学生以下の者が同居している場合は25%)
・助成限度額20万円
(中学生以下の者が同居している場合は25万円)

育てる

子育て支援クーポン支給事業

- 対象者
・小海町に住民登録している小学校及び中学校に入学する児童・生徒を養育している保護者
- 支給方法及び支給額
こうみP-ねっと協同組合商品券で交付
・小学校入学児童1人につき1,000円券 20枚
・中学校入学生徒1人につき1,000円券 30枚

高校生等通学費補助事業

- 対象者
高等学校等に鉄道で通学する子を養育している保護者
- 補助方法及び補助金額
通学定期券の購入費用の1/3を現金支給で補助

子育て支援おむつ費用助成事業

- 対象者
小海町に住民登録している2歳に達するまでの乳幼児を養育している父または母
- 助成方法及び助成額
こうみP-ねっと協同組合商品券で交付
対象乳幼児1人につき、おむつ費用として1ヶ月あたり2,500円

●保育料負担軽減制度

- 国の基準より低額の料金となっており、第2子は半額、第3子以降は無料

●その他

- 医療費は、県制度に加え、町独自で支給対象を拡大し、18歳まで無料
- 町営バスは高校3年生まで無料

働く

青年就農給付金(国補助)

- 対象者
自ら独立して農業を開始する方に対し、給付金を給付します
- 対象要件
原則として45歳未満で独立、自営就農する方
就農する市町村の「人・農地プラン」に位置づけられている方で、就農後の所得が(本給付金以外)が250万円未満の方
- 支給方法及び支給額
給付額 年間150万円 (最長5年間)

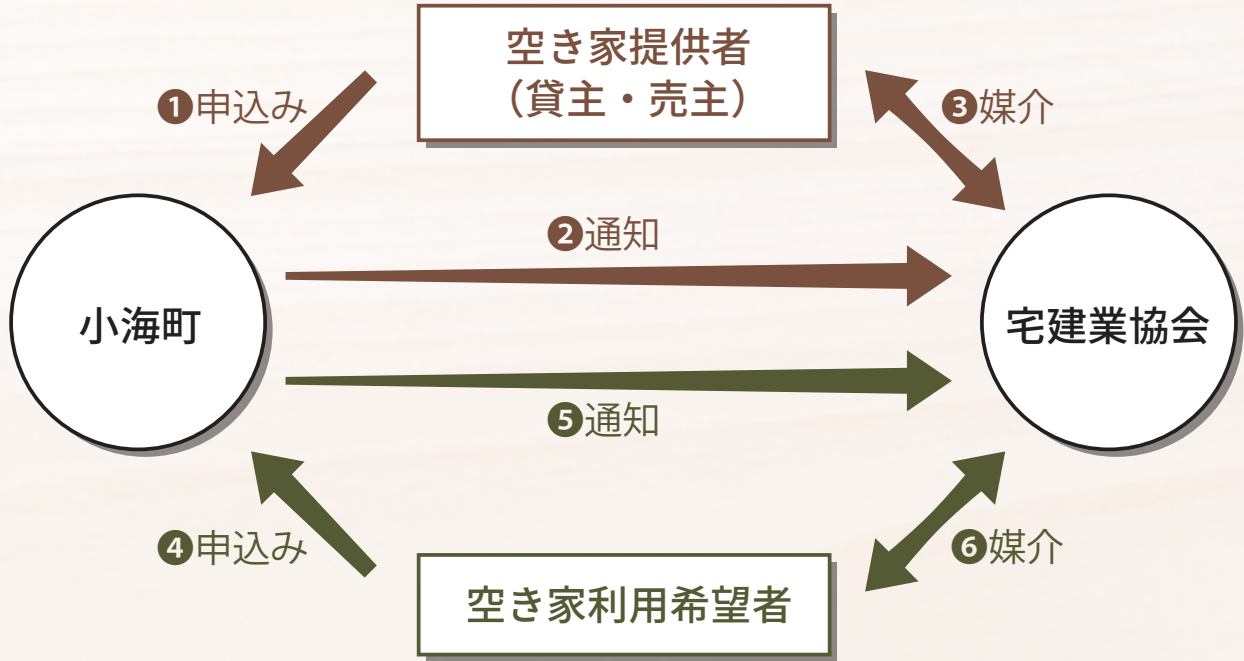




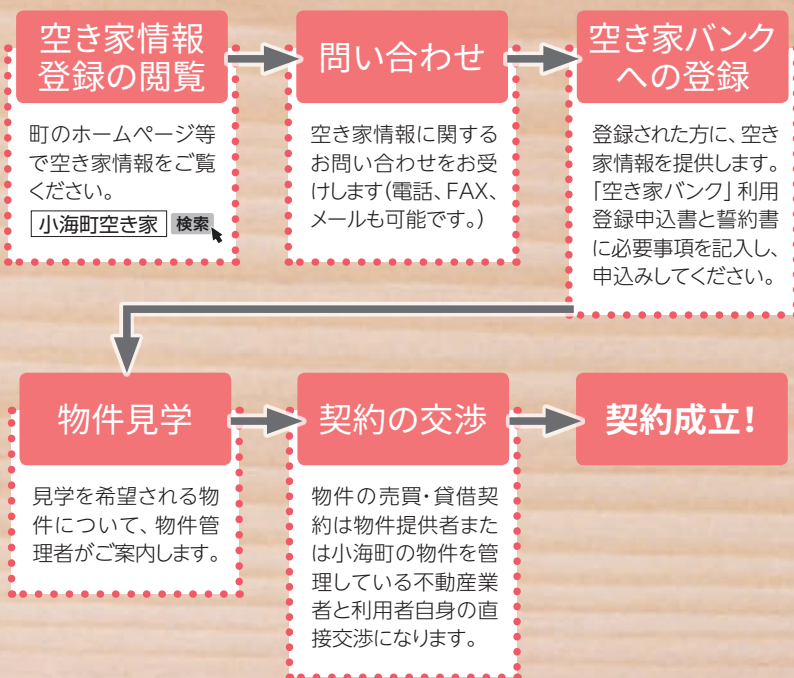
空き家紹介システム

町内にある空き家を有効利用するため、宅建業協会と連携して、移住を希望される方に空き家の紹介を行っています。

空き屋紹介システムの仕組み



手続きの流れ





移住者の声

小海町に移住された方々のきっかけや、移住しての様子、メッセージなどをご紹介します。

移住歴19年

的埜大介さん(45歳) 東京都出身

移住歴7年

後藤資幸さん(43歳) 千葉県出身

生活も遊びも、
田舎で暮らすメリットを
何もないとこから
自分で創る。



何かをする、つくる、
役にたちたい、治すなど
強い目的を



●移住のきっかけ

20代の頃、奥さんと二人で有機農業を目指したいと思うようになり、候補地を探しているなか、奥さんの知人から小海町を紹介されました。山登りを趣味とし、八ヶ岳が好きで、「いつかは!」という気持ちがあった的埜さんにとっては、運命的な出会いであったようです。

●移住しての生活

紹介された家は、当時築70年ほどの民家。リフォームをしながら約二反の畑と共に移住生活をスタートしました。全てが初体験のなかで始まった有機野菜づくりは苦戦の連続。しかし、当時26歳の青年には怖いものはなく、夫婦共々楽観的で、創造的な生活エネルギーが満ち満ちていたようです。ご本人曰く「何とかなるんです。」

小海町に有機農業を広めるために「こうみゆうきちゃん倶楽部」の結成にも参加。現在は会長に就任し、就農のために移住された皆さんとのコミュニティーづくりや、栽培方法の研究、市の開催、新たな販売先の開拓に奮闘されています。

●メッセージ

「生活も遊びも、田舎で暮らすメリットを何もないとこから自分で創る。また生活や遊びをさせてくれる地域にも恩返しのできる気持ちでコミュニケーションすることが大切だ!」

的埜さん移住19年の生活のなかでの実践された重みのあるメッセージでした。



●移住のきっかけ

あるきっかけで小海町に来る機会があり、小海町に通う生活のなか、山々に囲まれ、清涼な空気やおいしい水のある小海町の環境が、不思議と多忙な都会で生活する、ご自身のストレス解消となっていることに気づき、小児喘息とアトピー性皮膚炎で苦しんでおられたお子さんのアレルギー症状を改善するには、この地しかないと思うようになり、家族での移住を決意!

●移住しての小海町では

移住に関しては様々な不安、戸惑いがありましたが、お子さんの症状を改善する目的の方が大きかったそうです。移住後、一番の目的であったお子さんのアレルギーは、成長に伴い、大きく改善の方向に向かっているとのことです。現在は、ご自身、休日でも忙しい田舎生活(食料等の買出し、冬に備えての薪割り、夏場の草刈等々)のなかで、バンドにも参加し、ゆっくりと田舎の多忙生活!を楽しんでいます。

●メッセージ

「何かをする、つくる、何かの役にたちたい、何かを治すなど、強い目的を持って移住してください。田舎暮らしは自分で動いて工夫し成し遂げる気持ちが必要です。しかしながら、その工夫も次第に楽しみになります。」後藤家の田舎生活は、まだまだ発展途上。次の目標が気になります。



平成26年度 長野県地域発元気づくり支援金活用事業

お問い合わせ

小海町役場総務課 企画係

〒384-1192 長野県南佐久郡小海町大字豊里 57番地1

TEL 0267-92-2525 FAX 0267-92-4335

E-mail koumi@koumi-town.jp web http://www.koumi-town.jp/